

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念とホームの理念を提示しており、ホームの理念「寄添う介護」「優しい介護」を職員全員で話し合い実際の介護に臨むように心がけている。毎月の会議の中で利用者一人一人の対応を話し合い情報の共有をして対応している。	ホーム独自の理念が居間の柱に掲げられている。管理者や介護主任が中心となり毎月のケア会議などで意識づけがされている。理念にそぐわない言動があった場合には職員同士で注意し合い、管理者にも報告し全職員で更に徹底するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はないが、伝統行事の「子供みこし」を招いたり、地域の文化祭に出品する作品を作り展示して見学に行っている。そばやうどん打ちのボランティアが定期的に訪問している。近くの苗さんから苗を購入して、畑に野菜を植えている。	自治会に加入し自治会費を払い回覧板により地域の行事や情報を得ている。今年の地区の文化祭には干支の巳が出品される。地区のお祭りでは育成会から子供神輿への応援として休憩所の依頼があり飲み物も提供している。短大生が5日間、職員と同じ業務(日勤、早、遅番、調理、買い物)で実習をしており、利用者も実習生をすんなり受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症の理解や勉強会の機会に参加できていないが、体験学習の場として、実習生の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは家族代表2名、民生委員、市職員、ホーム職員2名で第4金曜日に決めて開催している。事業、行事報告、近況報告をしてホームの取り組み等理解していただき、話し合いの場の意見をサービス向上に努めている。	家族代表、民生委員、市職員(欠席時は代理を必ず出している)が出席し奇数月の最終金曜日に行われている。会議ではホームの事業や行事、利用者の状況等を報告し次月以降の予定も発表している。参加者からは地域の情報等も頂いている。9月と3月には利用者と一緒に昼食もとっていただき、「暖かい物を頂いているんですね」などの感想も聞かれるという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査の日程調整や、利用者の状況、申込み者の状況など連絡し協力関係を築けるようにしています。	市の担当者からの質問で開設からの入退所者の変動の情報を知らせたり、認定調査の日程調査に答えたりして日頃から連絡を取り合っている。更新申請の代行で窓口も訪れている。市派遣の介護相談員2名が半年に1度来訪しており、今年は全利用者の聞き取り調査が行われ、調査内容が管理者にも報告されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを読んで勉強会をしたり、ケア会議で身体拘束にならないか話し合っている。身体拘束の理解をしており玄関の施錠はしていないし、行動の制限もしていない。	マニュアルが作成されているので、年1回、ケア会議で対応の仕方を振り返り話し合っている。外出傾向の利用者が「畑に行く」、「家へ行く」と廊下を歩き玄関から出ようとする(自動ドアのため開け方が判らない)ので職員が転倒しないよう見守りながら一緒にひと歩きしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員で研修をしたり、日頃から何気なくしている言動が虐待になっていないか職員の間でお互い気をつけている。		

ケアネットグループホームすざか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を受ける機会がなく、しっかりとした理解はできていないと思う。今後会議等で勉強する機会を増やしていく必要がある。家族も高齢化している為、説明、相談もできるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にホームの見学をしてもらったり、ここでの生活の説明、リスクや重度化についての説明をしている。何かあるごとにその都度説明するようにして、家族からの意向や希望も聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には日頃の様子を伝えたり、困っている事を相談する事もある。年1回の家族会には、家族間との親睦を深めるようにし、話しやすい関係を作れるように努めている。	家族の来訪は週2～3回、月1回、遠方から3ヶ月に1回などと様々であるが、全く独居から利用に到った方もいる。家族会が新年会を兼ねて年1回開かれ、子供夫婦、兄弟なども参加し会議(施設の様子など)の後食事を一緒にしている。その時の利用者の嬉しそうな表情に職員も喜びを感じている。今後、毎月の請求書と一緒に1ヶ月の利用者の様子を家族に知らせていきたいとの意向もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月3回にセンター会議で決まった運営についての説明をしたり、毎月のケア会議では、一人一人の状態について意見を出すようにしている。そこで話合ったことを介護にいかしている。	ケア会議が月1回全員参加で(午後6時30分～9時)開かれる。センター会議(長野管内の事業所の全体会議)で決まったことや行事、研修、利用者一人ひとりの状態についても話し合っている。職員個々に立てた目標の振り返りのため人事考課も兼ねて半年ごとに管理者との面接も行われおり、目標以外の家庭の事情などについても話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人毎に半年づつ目標を掲げたり、半年前に掲げた目標について反省が出来るような機会を作っている。資格取得の意欲が持て研修会に参加できるようなシフトを考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会には参加できるようにし、月一回のケア会議に研修報告をして、皆で勉強会をしている。日々の仕事で活かせるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームねっとの勉強会に参加するようにしている。他施設へ一日実習に行き、第三者の目から見て良いところなど学んできて、自施設の改善点など考える機会が来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学をしていただき、本人と家族が安心して生活できるように話しを聞き、不安を少しずつ減らしホームに慣れていかれるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている時は気兼ねなく相談できるように対応に気をつけ、信頼関係ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込み相談を受けたら、家族、本人がどのように生活しているか聞き、他のサービスの情報や他の施設の情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話の中で利用者様の過ごして来た様子を聴いたり、経験した事を聞いて同じ話の共有が出来るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との面会、外出が安心して出来るように、日々の生活の様子を家族に話し、離れていても共に支え合う家族である事を忘れない関係に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家に帰り墓参りをしたり、親戚の方との交流をしてホームに帰ってくる人がいる。面会は姪や孫が来たり、利用者様に電話がきたりしている。知人にも気軽にホームに来ていただくように話をしている。	併設のショートステイを利用している知人と話をしたりしている。地区の文化祭で偶然馴染みの人に会い立ち話することもある。2ヶ月に1度理容師が来訪しカットする方もいるが家族と馴染みの美容院へ出かける方もいる。お盆や正月に自宅へ泊りしたり、お彼岸に2～3時間帰宅したり、亡夫の法事に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様との間に座って、食事やお茶をする。会話がはずむように声をかけたり、トラブルを避けるようにしている。利用者様同士の会話も大切にし、話をしている時は見守っている。		

ケアネットグループホームすざか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され契約終了した方もその後の様子をご家族に確認したり、他の施設での様子を聴いたりして、何かあれば相談しますとご家族に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活や会話の中から把握できるようにしている。ほとんどの方は意思を伝えられる。買い物や散歩に行くか声をかけている。困難な方は家族から情報を聞いたり、カンファレンスで検討している。	大半の利用者は思いや意向を表すことが出来、周りの方の動きを見て判断し行動を起こす方もいる。「今日お昼はおそばだよ…」と声がけするが物を見なければ認識できない方は「そば…？」と繰り返しに終始することもある。また、職員と二人きりになると「目の調子が悪い」、「頭が痛くて…」と訴えたり、孫、娘の自慢話の出る利用者もいるという。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で情報を得ているが不足している為、利用しているサービス事業所に確認をしたり、日々の生活や会話の中から情報をあつめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の一日の過ごし方や生活のリズムを変えないようにケアを心がけ、身体状態を観察している。一日の流れを記録し、本人の出来るところは職員がそれぞれ把握している。。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書は本人や家族の意向を聞いて、それぞれの担当者と相談し作成する。会議で話し意見を出してもらい再作成している。それぞれの担当者が毎月目標の評価をして、3か月毎に短期目標の見直しをしている。作成した物を家族に説明し確認してもらう。	本人や家族の意向を聞き、受け持ち担当者と相談し計画作成担当者が暫定計画を作成後、ケア会議で発表し、更に意見や提案を取り入れ完成させ、本人、家族に確認を頂いている。受け持ち担当者は短期目標の遂行状況を確認し、評価を記録している。3ヶ月毎もしくは状態に変化があった場合、現状に即して作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録、バイタル、服薬、排泄、入浴等の記録をしている。朝、夕の申し送り、ケース記録、連絡ノート等を使って確認し情報の共有し勤務するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応が出来るよう体制や工夫をしており、遠方の家族のケースや緊急時は施設で受診や薬の受け取り等おこなっている。		

ケアネットグループホームすぎか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お花見、バラ園、菊花展へ外出し、季節感を味わった。地域の文化祭に作品を出品し見学に行き交流を深めた。年二回そば打ち、うどん打ちに来てもらい交流が出来るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿ったかかりつけ医にしている。引き続き受診をご家族にお願いしている。家族が無理な時は施設で対応している。病状の変化は主治医に連絡して対応している。	本人や家族の希望に沿い利用前からのかかりつけ医を継続している。定期受診の付き添いは家族にお願いしている。半数以上の利用者が今年、市のレントゲン車で胸のレントゲンを撮った。訪問時、職員によるバイタルチェックが行われていた。隣接のショートステイの看護師に相談、助言を受けることができ24時間対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康管理、服薬管理、月1回の体重測定をしている。変化があれば、隣接しているショートステイの看護師に相談、助言をうけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の時はかかりつけ医に連絡し、ご家族と相談し病院を決めてもらう。医療連携室と情報を共有している。病院の様子を見に行ったり、退院に向けて連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を聞きながら対応し、重度化した時はどうするのか話合うようにしている。職員も出来るだけホームですごせるように、医師の指示に沿いながら本人や家族が安心できるように支援したいと思う。	開設後8年目を迎えているが看取りの事例はない。昨年2名の方が終末期をホームで過ごし医療機関に移られ最期を迎えている。これからも重度化した場合や終末期支援のあり方について、本人や家族が安心できるように関係者と話し合いながら支援していきたいとの方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心臓マッサージ、人口呼吸、AEDの実技を勉強する機会を持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の施設全体の避難訓練や災害時の連絡網を使って訓練している。スプリンクラーの設置もしており、非常時の食品や飲料水の備蓄をしている。	消防署の指導を受けながら利用者も参加し、昼間想定避難、誘導訓練を行っている。災害時の連絡網の訓練もしている。地元地区と災害に関わる応援協定も締結している。年度内に地域消防団の指導で夜間想定避難訓練も予定している。自動火災報知器、スプリンクラー等も完備され、職員もAEDや心肺蘇生法の訓練を受けている。	

ケアネットグループホームすざか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し言葉遣いに気をつけている。常に意識するよう会議などで毎回確認をしている。入浴は一人づつしてもらい、排泄もカーテンを締めプライバシーに配慮している。	基本的には苗字に「さん」づけでお呼びしている。同姓の利用者や職員がいる場合、本人や家族の承諾を得て名前でお呼びしている。個人的な情報も皆の前で言わないよう気をつけている。排泄や入浴の支援時には必ずドアやカーテンを閉めるなど、プライバシーに十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との毎日の生活の中で、相手のペースに合わせた行動や言葉掛けで本人の思いや希望を聴けるようにしている。会話をし自己決定を促すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように、一人一人の生活リズムを大切にしている。散歩に行ったり、テラスに出たり、お部屋で寝たり本人のしたいように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みもあり、入浴時や外出時は本人に着るものを決めてもらっている。季節にあったおしゃれが出来るように支援している。身だしなみもその都度声掛けし本人にやってもらう。2ヶ月に1回ホームで散髪が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じる食材を献立に取り入れ、下ごしらえ、盛付を一緒に行っている。片付けも出来る人にはやってもらっている。季節のフルーツを食べたり、外食を楽しんでもらっている。	利用者は出来る範囲で野菜の皮むき、刻み、片付け、食器拭きなど、職員と一緒にいる。献立は利用者の希望も取り入れ職員が立て、管理栄養士が必要に応じ助言をしている。訪問調査時、善光寺近くのお蕎麦屋さんがボランティアとして新蕎麦を打ちに来訪しており、併設施設内の職員も加わり、賑やかに「ざるそば」と「天ぷら」に舌鼓をうっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に献立を見てもらい、カロリーや栄養の偏りが無いようにしている。水分摂取や食事量はその日の体調など見ながら、声掛け無理しないようにしている。職員同士食事量など確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けをして、一人一人の歯の状態を把握し支援している。歯磨きできない方は職員がブラッシングしている。歯の無い方はウガイをしてもらい、食事の残物が口の中に残っていないか確認している。		

ケアネットグループホームすざか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがあり、介助や声掛けが必要な方はそれぞれ時間を見てトイレ誘導を行っている。紙パンツやパット等個々にあった物を選んでいる。自立している方もいる。	一人ひとりの排泄パターンやリズムを職員は把握している。介護日誌にも排泄時間の記入欄がありそれを参考に誘導や声掛けをしている。居室にトイレがあるのでプライバシーは守られている。ほぼ自立している利用者もいるが、夜間安心と安眠のためにオムツを使う方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬による調整が必要な方は医師に相談しながら指示をもらって、排便の確認をしている。食事、水分ばど体の状態を見ながら声掛けしている。体操を行い腸の動きが出るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は一日置きになっている。浴槽が大きい為時間はほぼ決まっている。その日の体調や様子を観察し一人一人の身体状況や精神面を考慮しながら、個々に入浴支援をしている。入浴の嫌いな方も入ってしまえば「良かった、有難う」と言葉が出る。	浴槽は3方向から介助できる。ラジウム人工温泉で週3回以上入浴できる。職員は浴槽1人、着脱1人で支援している。バラの花びら、菖蒲、柚子で季節の香りを楽しんでいる。入浴を拒む利用者もいるが、入浴すると「気持ちがいい」と良い表情を見せているという。受診の帰途に家族と日帰り温泉を楽しむ利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し個人個人の生活習慣や状況に応じて休息している。体操や散歩に出るなど、適度な疲労感で夜はゆっくり眠れるようにしている。眠れない方は一緒にテレビを観たり、話をして安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬説明書を管理し、薬の内容を職員全員がわかるようにしている。服薬の確認は二重チェックして、本人に手渡し飲んでもらう。症状の変化など記録に残すようにしている。その日の服薬状況も引継ぎで行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で片付けや食器拭きなど役割を持って手伝ってもらっている。お手伝いの時は感謝の言葉を添えている。本人の意思に沿ってやってもらい無理しないように支援している。歌やゲームをして楽しんでもらえるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はテラスに出たり、体調を把握して散歩に行ったりしている。本人が外出希望ある時は家族に伝え協力が得られるように相談している。バラ園や菊花展など出かける。買い物と一緒に行く事もある。	天気が良い日には広い敷地内を散歩している。紅葉が始まった敷地内を職員が車椅子を押し傍らにもう1人の利用者と散歩する光景を見ることができた。居間続きのテラスには毎日のように出て外気に触れている。行事外出として花見、バラ園や菊花展に出かけたり、食事を楽しむこともある。職員と買い物と一緒に出かける利用者もいる。	

ケアネットグループホームすざか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の物が買えるようにお小遣いを一人一人預かっている。買い物に行った時欲しい物があれば聞いたりする事もある。受診に行って自分でお金を支払う人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意向を聞きながら、家族に電話をかけたたりしている。家族や知り合いからの電話は歓迎している。年賀状を本人に書いてもらい家族宛に出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と居間が一緒になっており、食事を作る様子を見れたり、お手伝いが直ぐできるようになっている。テラスがあり、庭には畑があって野菜を作っている。大きな硝子戸で日差しが差し込むようになっている。居間には共用のトイレがあって誰でも使えるようになっている。	食堂兼居間、台所、和室がワンフロア内にある。南に面して大きなガラス戸があり外は段差のないテラスで各居室のテラスに繋がっている。垣根越しに通過するロマンスカーやモンキー車両、普通電車を見ることが出来る。ガラス戸からは秋の柔らかな陽が射し込み、思い思いに時を楽しんでいた。廊下の壁には地域の子供神輿の写真も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやリクライニングに座って会話をしたり、テレビを観たりできる。マッサージチェアが置いてあり、いつでも使えるようになっている。テラスにも椅子が置いてあり、外の空気を吸いながらゆっくり話をする人もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族が持って来た本人やお孫さんの写真や愛用した絵本が置いてある人がいる。テーブル、椅子、タンス、ベットは備え付けになっていて自分の使いやすいように配置している。	各居室にはホームで用意した落ち着いた色調のローチェスト、ベット、トイレ、洗面台、テレビが備えられている。ローチェストの置き方に一人ひとりの特徴が出ており個性豊かな居室作りがされている。壁に家族の写真、机の上に「桃太郎」等の童話が数冊置かれた居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっていて、廊下には手すりが設置してある。居間の一部は床暖房になっているので、冬は椅子に座っていても下から暖かくなっている。部屋の入口に名前をはり、季節の花の絵を飾ってある。		